

CNES棚田における 環境保全型農法の実践と評価

12108041 木村 柊
12108073 関真之
12108110 林峻太郎

背景

棚田とは・・・



※写真
CNES棚田

中間山地の斜面にある階段状の水田。
洪水防止や水資源涵養などの機能を持つ

棚田の保全は

- ・ 農村風景・農村文化・地域環境
を守ることに繋がる

目的

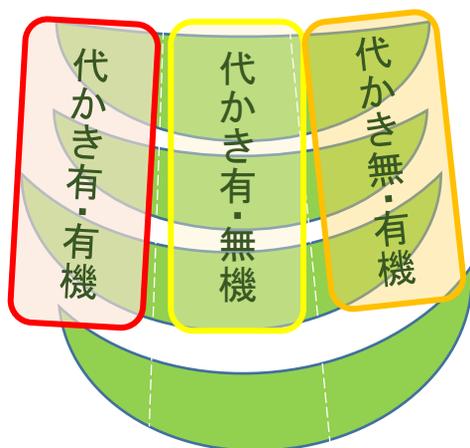
環境保全型農業により

環境に配慮した農法を実践し、評価し、普及
を試みる

⇒ **有機農業**を普及させる

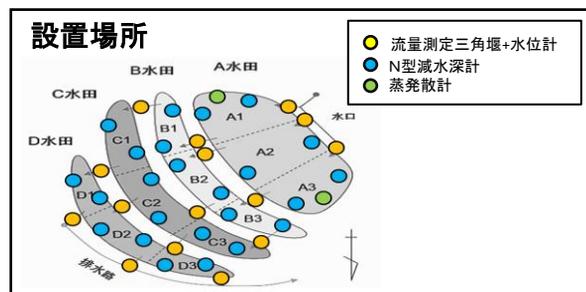
調査条件

- 代かきの有・無により、代かきの必要性
- 有機・無機肥料による収量、品質の差
- CNES棚田の1～3段を使用



調査項目

- 水の流入・流出量



- 収量・食味値

収穫した米の収量の物理的評価を行うため、単位収量・玄米千粒重・粳わら比・落米率の調査。品質はJAに依頼し100点満点で表す。

- 水質調査

簡易測定器(水温、PH、DO、EC)

イオンクロマトグラフィー

(K^+ ・ Na^+ ・ NH_4^+ ・ Ca^{2+} ・ Mg^{2+} ・ SO_4^{2-} ・ NO_3^- ・ Cl^- ・ NO_2^- ・ PO_4^{3-})

- 雑草量

田植え後、40～50日後頃の一定面積の全雑草量を抜き取り、乾物重を測定し、1㎡あたりの雑草量の算出する。

研究の流れ

田植え前

耕起・畔づくり・代かき・
肥料散布



田植え後

水の流入流量・減水深・
蒸発散量・水質・収量・
食味値の調査